

# 介護部会横浜南部ブロック会議

実施日 令和元年6月20日(木) 14:00~16:15  
会議実施会場 介護老人保健施設 あさひな  
参加人数 16施設 35名  
議事項目 「認知症ケアについて」

事前にアンケートを取り意見をまとめディスカッションを行ないました

- ①認知症専門棟の有無(参考情報の為、議事録への記載はなし)
- ②認知症ケアで取り組んでいる内容
- ③BPSDの中で「帰宅願望者」に対する対応
- ④転倒、転落リスクの高い利用者様の対応
- ⑤その他、困りごと相談したい事

## A施設

- ②精神科Dr.を講師とした勉強会を毎月実施  
タクティールケア研修中(今後指導員としての資格も視野に)  
レクリエーションの充実化。内容としてブンネ(スウィングギター)、  
料理また音楽療法士を中心とした音楽レク
- ③傾聴、外気浴、家族協力のもと手紙を作成し必要時見て頂く、  
役割分担(タオルたたみ、テーブル拭き等)
- ④自動ブレーキシステムの車いすを使用、座席を近い席にして見守りしやすい環境を作る、24時間シートを活用し行動パターンを把握、対応の優先順位の共有  
環境設定(センサー類の活用、居室内のレイアウト変更、導線の確保)

## B施設

- ②利用者様の行動や話す事全てに意味がある事を理解し「寄り添う」ケアを実施
- ③「傾聴、共感」をし、否定をしない
- ④傾聴を行ない落ち着かない場合は1対1の対応を行ない観察する

## C施設

- ②個人記録、連絡ノートの活用と共有をし「人を知る」  
(症状、行動、頻度、時間帯、スタッフの対応内容、成功・失敗例)
- ③明日帰宅する→一緒に帰りましょうとフロア内を付き添う→外に出て気分転換を  
統一、「帰れない」とは言わない
- ④行動把握を目的としたセンサーマット使用、  
訴えをまずは傾聴し内容を理解し受け入れる

#### D 施設

- ②勉強会の開催、外部研修（伝達講習あり）
- ③1対1で対応（交代含む）、相談員 CM の協力  
家族協力のもと手紙を作成し必要時見て頂くもしくは電話で話をして頂く
- ④行動把握を目的としたセンサーマット、転倒・転落緩衝マットの使用  
食事席、居室等出来るだけ対応しやすい環境設定を行う

#### E 施設

- ②勉強会の開催（スピーチロックを特に力を入れている）  
職員の言動を注意することで BPSD の軽減に努めている  
介護ロボットの活用（パロ、かぼちゃん）  
環境整備（フロア移動、他者交流の良好なところへ移動等）
- ③傾聴、見守り、必要に応じて職員と一緒に散歩（事務や NS にも協力を得る）  
エレベーターのロックがかかっているフロアにて対応（自由な行動ができるように）  
環境設定（他者交流を中心にまずは検討）
- ④自動ブレーキシステムの車いすを使用  
常に職員がいる状態を作る（声の掛け合いと状況の共有）  
行動の把握、居室のレイアウト・導線の確保、注意喚起の為の貼り紙をする

#### F 施設

- ②環境設定（食事席の検討、レク活動、見守り体制）  
周辺症状のある方に対して職員間で声を掛け合い寄り添った対応が出来るように見守る
- ③家族、訴え、頻度等を職員間で情報共有し、必要に応じて家族連絡をする  
座席の検討、環境設定（集中できるような内容を提供できる場作り）  
エレベーター前センサー設置
- ④環境設定（移動・出入がしやすい席等）、状態の情報共有、センサーマットの使用  
自動ブレーキシステム車いすの使用、所在確認と声の掛け合い

#### G 施設

- ②教育委員会のよる勉強会開催、外部研修  
「認知症の理解」について紙芝居形式で研修を行える資格を取得し、職員以外にも地域向けへも紙芝居を活用し発信している
- ③動きがあれば気持ちに沿って対応（歩行等）し、水分を提供等し意識をそらす  
役割分担（タオルたたみ、パズル、塗り絵等）  
「ご家族へ連絡してみます」「ご家族が来るまで待っていきましょうか」等具体的声掛け
- ④原因の究明（排泄、他者の動き、帰宅願望等）  
環境設定（食事席、居室内レイアウト、導線の確保）、靴の検討

## **H 施設**

- ②グループケアの実施、食前・食後の手洗いうがい、毎食後の口腔ケア実施  
ADL・介護度・ICF スコアによってグループ分けの実施  
重度の利用者様グループへはスキルの高い職員の配置
- ③納得されるまでフロア内の歩行  
(リスクがあれば付添い、介護助手がいれば1対1にて対応可)  
時間の予測が可能な方に関しては帰宅願望が出る前に対応  
BPSD に対するアセスメント (例：役割を提供)  
基本として受容し否定はしない
- ④前提としてセンサーが無い為、見守りが出来る居室の入所  
ヒヤリハット、事故報告より分析し他職種介入のカンファレンス開催  
環境設定 (ベッドから降りても事故にならないような対応 (床に降りる前提))

## **I 施設**

- ②職員の対応を統一化する為情報共有を中心に行なっている
- ③個人的な案件対応ですが「今日はお泊りですよ」「これから暗くなるので今から帰るのは危ないですよ」等声掛けの統一化を行なっている  
集中できる役割分担
- ④センサーマット、柵コール、看板や貼り紙の設置  
動作・行動・居場所の把握  
他部署、他フロアの協力体制

## **J 施設**

- ②傾聴しフロア内の歩行し気分転換を行う  
お茶ゼリーなどの提供
- ③傾聴し否定はしない、歌を唄ったり手足を動かしたり運動を取り入れ気分転換を図る、スキンシップを多く取る
- ④見守りがよりしやすい環境を整える、導線の確保、所在確認  
夜間こまめな巡視

## **K 施設**

- ②職員教育、ストレス軽減に向けた業務調整・改善
- ③原因を探りその人にあつた対応を究明し統一した対応が出来るよう共有する
- ④転倒要因について情報の収集・分析を行う

## **L 施設**

- ②施設理念をもとに意識・体制の確保、勉強会の開催
- ③「寄り添う」「傾聴」
- ④近位での見守り、センサー類の使用 (コールクッション、人感、離床、マット)  
身体機能面の維持・向上を目的とした生活リハビリの実施

#### **M 施設**

- ②訴えに否定をしない、トイレ頻回も都度対応するよう指導
- ③気分転換を図る、声掛けの工夫
- ④傾聴と付添い

#### **N 施設**

- ②ユマニチュードの実践、他職種との連携（リハビリ、音楽療法）  
チーム対応（担当別ケア、なじみの関係づくり）
- ③訴えのある時間帯を把握しレクリエーションや手作業の提供し気分転換を図る  
傾聴
- ④見守りのしやすい環境設定、導線の確保、塗り絵等の提供、歩行器の取り入れ

#### **O 施設**

- ②外部・内部研修を中心としている
- ③一人の職員で対応（信頼関係のある職員で対応）
- ④定期的な巡視と臨時のカンファレンスを開催、環境設定

#### **P 施設**

- ②個性化ケア、声掛けのトーン等に注意をしている
- ③レクリエーション参加、傾聴、外気浴
- ④基本的には側にて対応、コールクッションの使用、目配り

⑤時間内にディスカッションが出来なかった為内容のみと記載となります

- ・ 認知棟でのレクリエーション、予防としてのレクリエーションが知りたい
- ・ 症状を問わずに参加できるようなレクリエーション案はないか
- ・ センサー重複対応時としてどのような対策をしているか
- ・ 浅眠の方への夜間の対応はどうしているか
- ・ 職員や他利用者様に対して暴力行為がある方の対応方法はどのようにしているか
- ・ 落ち着かせるような声掛けの方法について
- ・ 職員配置がどうしても少なくなったときの対応方法についてどうしているか
- ・ 転倒予防物品でより活用できそうなものはないか
- ・ ハイリスク者の夜間対応
- ・ 認知症ケアを行なうにあたり経験や価値観によってズレが生じやすく統一した対応を行う為に取り組んでいる事はないか
- ・ 職員のメンタルケアについてはどうしているか
- ・ 外国人受け入れを（EPA、インターンシップ、技能実習生、留学）しているか
- ・ 家族介護教室の活用法について

各施設現場で困っている事が多々ある為今後の課題としていくか

他の方法で対応していくか検討が必要と考えます